

中央銀行デジタル通貨に関する取り組み状況について

別所昌樹（日本銀行）

一般利用型中央銀行デジタル通貨（中央銀行がその直接負債として自国の法定通貨建てで発行し、個人を含む幅広い主体が利用可能なデジタル通貨。以下「CBDC」）に関する取り組みが多く、多くの国で進められている。現時点でわが国では CBDC 発行計画はなく、導入するか否かは国民的な議論を経て決まるべきものだが、そのような議論に資するよう日本銀行では技術面、制度設計面の検討を続けている。

CBDC に期待される機能と役割は国により異なるが、日本銀行は、①現金に並ぶ決済手段の導入、②民間決済サービスのサポート、③デジタル社会にふさわしい決済システムの構築、の 3 つを念頭に置いている。

また日本銀行では、「水平的」、「垂直的」という 2 つの「共存」の確保が重要と考えている。「水平的共存」とは、現金、銀行預金といった様々な決済手段が機能に応じ役割分担することであり、CBDC が他の決済手段と円滑に等価交換できることと、銀行預金から CBDC への大量かつ急激な資金移動が生じないようにすることが求められる。

「垂直的共存」とは、多様な主体が CBDC システムに関与することでイノベーションが促進され、エコシステムが発展することである。

技術面では、日本銀行は 2021 年からの 2 年間、CBDC を記録する台帳部分に焦点を当て実現可能性等を検証する概念実証を行った後、2023 年にパイロット実験を開始した。パイロット実験は「実験用システムの構築と検証」と「CBDC フォーラム」の 2 本柱からなり、エンドポイントデバイスから中央システムまでを一体的に実装する実験用システムを構築しエンドツーエンドでの処理フローの確認等を行うほか、リテール決済に関わる多様な民間事業者の参加を得ながら幅広いテーマの議論・検討を進めている。

以 上